

# 科学技術の潮流

JST研究開発戦略センター

(329)

をめぐる国際的な議論の自由な循環を促すドイツは25年12月、第1弾として国外からSTEM（科学、技術の優秀な若手研究人材）分野を対象としたビザを新設するなど、人材獲得を強化している。

## 各国が施策強化

各国・地域では、自国に「欧州研究圏」の枠組みに関する予算強化や66人の卓越した研究一因となつてい

研究人材は、科学技術者向け就労ビザの制限拡大などが打ち出された。一方、議会による予算編成過程では削性確保や、戦略上重要なプロジェクトなどが政策を展開している。

# 研究人材獲得に各国意欲

地域が研究人材の獲得に意欲を示している。

## 米の政策見直し

米国では25年1月の新政権発足に伴い、科学技術・イノベーション関連政策の大幅な見直しが進められてい

減幅が縮小する傾向も見られるなど、状況は流動的だ。一連の動向は、結果として「米国からの頭脳流出」や「科学の自律性への懸念」を招き、研究者の意欲を削いでいる。これに反発する英国は世界トップ層の研究人材を誘致・定着を目的として、フランスやドイツは特に重要・戦略的誘致を推進している。中国は海外拠点の自国籍研究者の帰国を促進している。



科学技術振興機構(JST)研究開発戦略センターフェロー(STI基盤ユニット) 山田 愛

東京大学大学院工学研究科博士後期課程単位取得満期退学。国立大学の学術専門職員などを経て、24年10月から現職。人材施策などSTI政策に関する調査を担当。

## 2025年における主要国・地域のイニシアチブや主な施策

国・地域	イニシアチブや施策など
欧州連合	「Choose Europe for Science」5年間5億€規模
フランス	「Choose France for Science」5年間1億€規模
ドイツ	「1,000 Heads Plus プログラム」2029年までに6億€計画
英国	「グローバル人材タスクフォース」設置、5,400万€の基金創設
中国	STEM分野の優秀な若手研究人材を対象とする「Kビザ」の導入
日本	「J-RISE Initiative」在外日本人も含む優秀な研究人材を戦略的に招聘

筆者作成

を強化している。

日本も国際頭脳循環を強化するため、25年6月に新たなイニシアチブを発表した。これは政府が重点的に推進する政策枠組みであり、国際共同研究の推進拡大に加え、在外日本人を含む海外研究者を招聘する新施策の実施も進んでいる。

25年に活発化した各国の政策が、国際的な研究人材の移動にどのように影響するかは未知数だ。今後は、諸外国の施策の実効性を注視するとともに、日本が国際的な人材獲得競争の中で選ばれる研究環境をいかに構築していくかが問われる。

(金曜日に掲載)